



## 持続可能な開発目標(SDGs)に貢献する森林・林業・木材産業①

### 森林・林業・木材産業を支える関係者の役割

林業・木材産業関係者に加え、様々な企業や個人が森林に関わることで、林業・木材産業の課題の解決にもつながり、森林の様々な機能が発揮され、SDGs に貢献していくこととなります。地方公共団体や国は、行政の立場から林業・木材産業を含め、企業や個人の取組が活性化するように後押ししていくことが重要です。

#### □企業の関わり方

中小企業においては、SDGs 対応はまだ途上にあると言われていますが、**まずは SDGs を知り、SDGs の観点から事業のあり方を見直してみることが大切です。**

日本全体の人口が減少していく中、どのように地域を維持していくかが大きな課題となっていますが、森林が重要な地域資源となっている地域では、森林を活用することで、環境・経済・社会の各方面での好ましい流れに目に見える形でつながっていくことも期待されています。**例えば、地域で連携して住宅や店舗、家具等に木材を使うことで、林業、木材産業、工務店を始めとする様々な地元企業に経済的な好影響の連鎖が生まれ、ひいては地域社会にも貢献。様々な森林サービス産業も、地域の企業や団体、関係者が都市とのつながりも活かしながら協力して実行している例も多くあります。**

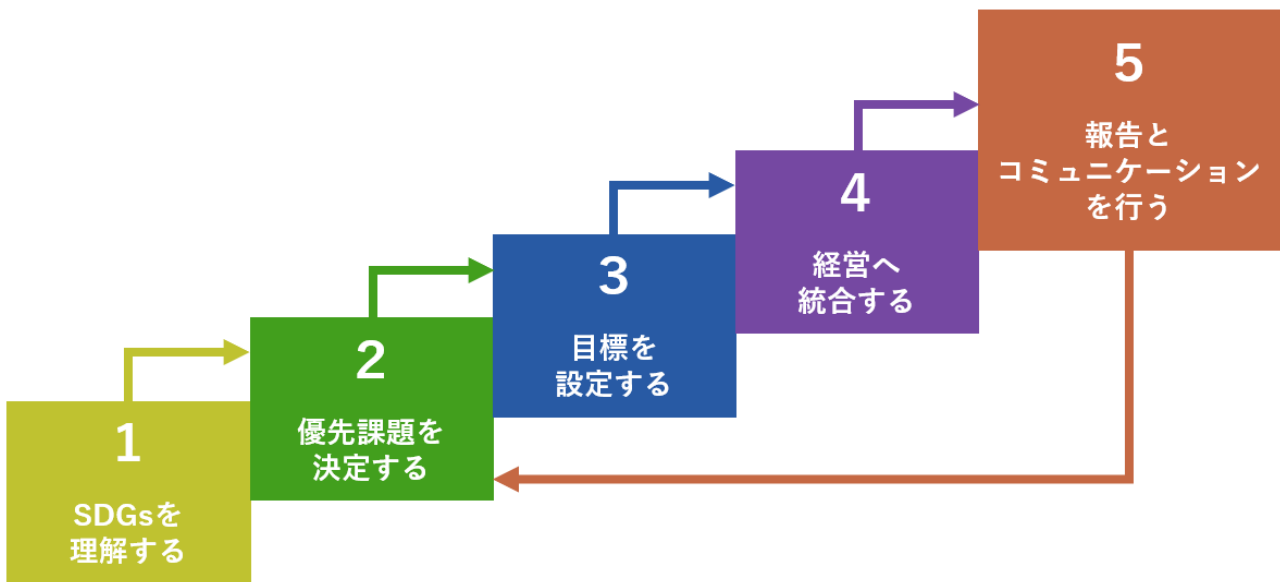
### 企業向けの SDGs の導入指南書「SDG Compass」

平成 27 (2015) 年に、GRI (Global Reporting Initiative)、国連グローバル・コンパクト (UNGC)、持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD) の 3 団体が共同で作成した、企業向けの SDGs の導入指南書である「SDG Compass」が公表されました。

企業が SDGs に取組やすいように、具体的に 5 つのステップを提示されています。

STEP1~5 取り組みは導入時によく行われる STEP の事例となります。

すでに SDGs に取り組んでいる企業は、まずは話し合いからスタートします。話し合いは SDG コンパスに基づいて行われ、その内容は SDGs そのものの理解から始まり、SDGs に繋がる自社の事業活動を整理して進めることにあります。実際に SDG コンパスに基づいてどのように SDGs の取り組みを企業で進めるかステップを確認しましょう。



## 企業向けの SDGs の導入 S T E P

SDG コンパスを基に具体的に企業が SDGs を導入するのに必要な STEP について解説します。コンパス自体は俯瞰したどの企業にも当てはまる内容ではありますが、企業が SDGs に取り組むには多少期間を割いて話し合わなければ、一朝一夕になるものではありません。

<b>Step 1</b> 話し合い&考え方の共有	①企業理念の再確認と将来ビジョンの共有 ②経営者の理解と意思決定 ③担当者の決定とチーム結成
<b>Step 2</b> 自社の活動内容とSDGsを紐付けして考える	①内容確認の進め方 ②事業・活動の環境や地域社会との関係の整理 ③SDGsのゴール・ターゲットの紐づけ
<b>Step 3</b> 取り組む目的・内容 ゴール・担当の検討	■取り組みの行動計画を作成→社内での理解・協力を得る ①取り組みの動機と目的 ②取り組みかた ③コストについて
<b>Step 4</b> 取り組みを実施、その結果を評価	①取り組み経過の記録 ②取り組み結果の評価とレポート作成
<b>Step 5</b> 一連の取り組みを整理、外部への発信にも取り組む	■評価結果を受け、次の取り組みへと展開 ①外部への発信 ②次の取り組みへの展開

(1) SDGs を理解する：第 1 ステップは、SDGs を理解することである。

現在の企業理念の再確認を行い、将来ビジョンを明確にし、企業一丸となってビジョンの共有を深めることが第一ステップとなります。これから先、企業が何を指すのか、目標が明確でない場合は、どんな目標を立てるのかから始めることが出発点となります。

- (2) 優先課題を決定する：バリューチェーン全体を通して、SDGs に関する正と負の影響を評価し、これに基づき、優先的に取り組む課題を決定する。

森林・林業・木材産業を支える関係者の役割としては、合法木材への取り組みが優先課題のひとつとなることは間違いありません。木材の取り扱いに合法性を担保することでサプライチェーンにバリューチェーンを示すことができます。他にも配送に関わる面での効率化や環境・社会に向けて貢献するための複数の内容について自社が取り組める内容を整理して進めます。

\*バリューチェーンは物やサービスにどのような価値が加わっているのか  
サプライチェーンは物がどのように供給されているかを表します

- (3) 目標を設定する：具体的な目標を設定することで、企業全体で優先的事項の共有を促進し、対外的にも持続可能な開発に関わる明確な情報発信が可能となる。

数値を設定する・期間を設定する・いつまでに達成するかを決める。そして、実際に取り組む社員たちがどのようなチェックや報告を行いながら事業を進めていくかを明確にすることで取り組みの行動計画を立てます。

- (4) 経営へ統合する：目標の取組に向けて、中核的な事業等に持続可能性を統合し、企業内の全ての機能に SDGs を組み込む。

これらは SDGs 目標を明確にした後に、ただ宣言しただけでなく、実際に取り組んでいるかどうかを明確にする為に必要なステップになります。経過の記録を行い、現状の取り組みが目標に対してどの程度の水準で推移しているかを整理する。

- (5) 報告とコミュニケーション：国際的に認識された基準や (2) で整理された優先課題を活用し、持続可能な開発に関する情報開示を行うことができる。効果的な報告は、ステークホルダー（関係者）とのコミュニケーションに加え、信頼を醸成し価値創造を促進する。

(4) で整理された経過状況をホームページ・WEB サイト等で開示していくことになります。宣言しているだけで、実際の取り組みが見えない場合は、SDGs に取り組んでいないものも同然の扱いとされてしまいます。取り組みと現況がリンクしているかどうかを対外的に開示できるかがポイントとなり、これが継続して活動に結び付いているかが明確になることで、SDGs の取り組みが進んでいることが誰にでも分かるようになります。